

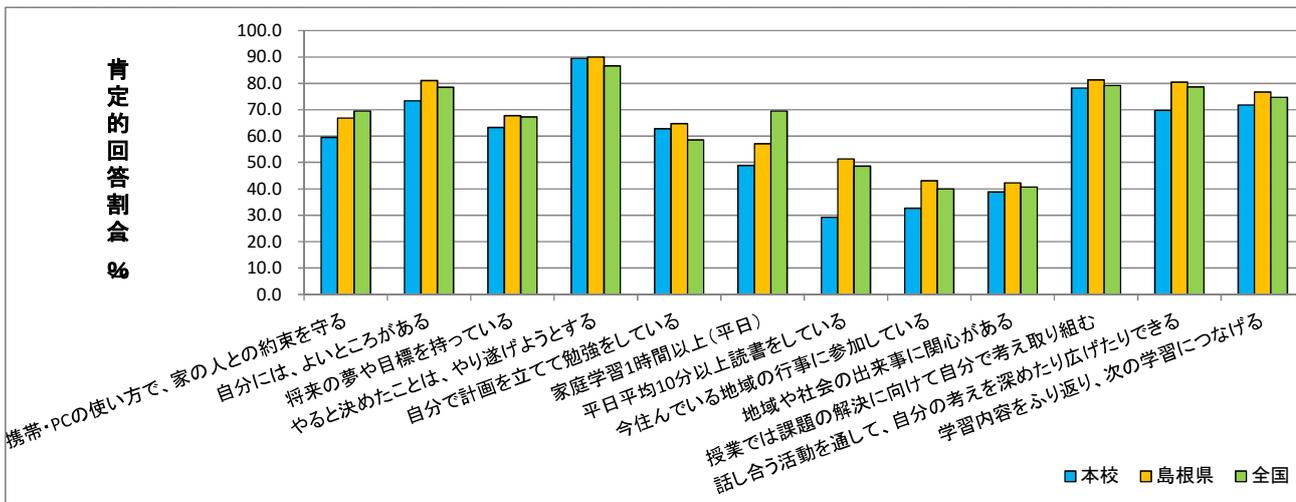
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○語句の意味を答える問い、文法に関する問いは、正答率が県や全国を上回った。 ●記述式で解答する問題に関して正答率が低く、無回答の生徒も多かった。	・授業の中で、問いに対して単語ではなく文章で答える機会を増やす。 ・定期テストで記述式の問題を様々な難易度で用意し、記述式の問題への抵抗を減らす。
数学	○数と式の問題の正答率が県を上回った。 ●全国平均と比べると、ほとんどの問題で無回答率が高く、また正答率が低かった。	・授業の中で基本的な事柄について小テストなどを行い、振り返りを行う。 ・様々な様式の問題を授業の中で課題設定し、記述式の問題の抵抗を減らす。
理科	○短答式の問題の正答率は県や全国を上回った。 ●ほとんどの問題での無回答率が県や全国を上回った。特に記述式で回答する問題では顕著だった。	・授業の中で、小テスト等を行うことによって問題文に慣れる機会を設ける。 ・様々な問題形式の課題を授業に取り入れたり、自分の考えを記述する時間を確保したりする。

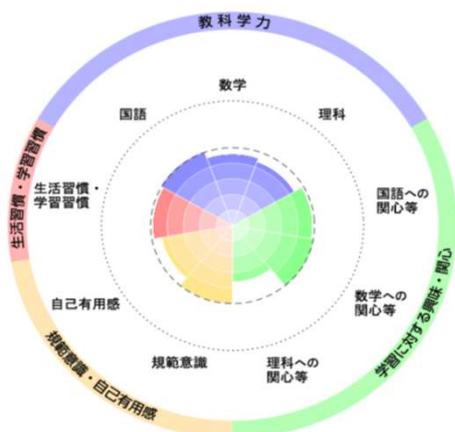
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○課題解決に向けた取組が積極的なことから、ペア学習を通して考えを深める機会を設けていることが好影響を与えていると考える。 ●家庭学習の時間が少なく、習慣化が不十分である。 ●読書時間が平均よりもかなり低く、文章に触れる時間が短いことから、読み取りや文章を考える力の定着に影響が出ている。	・家庭学習の方法やテスト前の学習会などを通して、習慣化を目指す。 ・図書館利用を促進し、学校や家庭での読書時間の増加を図る。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・学校や地域の行事で人と関わる機会を増やし、その中で人の話を聞く力、自分の言葉で自分の思いを伝える力の育成を図る。

【受検者数】

182 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。